

令和6年度実施「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」集計結果等の概要

神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課

令和6年度、全県立高校を対象に行った「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」の集計結果を取りまとめました。今後の県立高校改革の動向を踏まえ、分析結果を活用しながら、魅力と特色ある県立高校づくりに生かしてまいります。

I 実施対象

生徒	全県立高校（全課程）の卒業学年・年次の生徒
保護者	上記生徒の保護者
学校運営協議会委員	全県立高校の学校運営協議会委員

II 実施時期 令和6年1月～令和6年2月下旬

III 集計区分

課程	学科	学びのしくみ	校数	対象校
全日制	普通科	学年制	94	鶴見、横浜翠嵐、城郷、港北、新羽、岸根、霧が丘、白山、市ヶ尾、田奈、元石川、川和、荏田、新栄、希望ヶ丘、旭、松陽、横浜瀬谷、横浜平沼、光陵、保土ヶ谷、舞岡、上矢部、金井、横浜南陵、永谷、柏陽、横浜緑ヶ丘、横浜立野、横浜氷取沢、釜利谷、新城、住吉、川崎北、多摩、生田、百合丘、生田東、菅、麻生、麻溝台、上鶴間、上溝、相模原、上溝南、橋本、相模田名、相模原城山、津久井、横須賀、横須賀大津、追浜、津久井浜、横須賀南、平塚江南、高浜、鎌倉、七里が浜、大船、深沢、湘南、藤沢西、湘南台、小田原東、西湘、逗子葉山、茅ヶ崎、茅ヶ崎北陵、鶴嶺、茅ヶ崎西浜、秦野、秦野曾屋、厚木、厚木王子、厚木北、厚木西、大和、大和南、大和東、大和西、伊勢原、伊志田、海老名、有馬、座間、足柄、綾瀬、綾瀬西、寒川、大磯、二宮、大井、山北、愛川
		単位制	14	神奈川総合、横浜旭陵、横浜緑園、横浜桜陽、横浜清陵、横浜栄、川崎、大師、相模原弥栄、平塚湘風、藤沢清流、小田原、三浦初声、厚木清南
	総合学科	単位制	6	鶴見総合、金沢総合、麻生総合、藤沢総合、秦野総合、座間総合
	専門学科	学年制	21	神奈川工業、白山、二俣川看護福祉、商工、上矢部、磯子工業、川崎工科、向の岡工業、相原、津久井、横須賀工業、海洋科学、平塚農商、平塚工科、藤沢工科、小田原東、小田原城北工業、厚木王子、厚木北、中央農業、横須賀南
		単位制	6	神奈川総合、横浜国際、神奈川総合産業、相模原弥栄、三浦初声、吉田島
定時制	普通科	学年制	7	横浜翠嵐、希望ヶ丘、津久井、横須賀、追浜、茅ヶ崎、伊勢原
		単位制	7	横浜明朋、相模向陽館、川崎、湘南、小田原、厚木清南、高浜
	総合学科	単位制	4	磯子工業、向の岡工業、神奈川総合産業、秦野総合
	専門学科	学年制	2	神奈川工業、小田原城北工業
通信制	普通科	単位制	2	横浜修悠館、厚木清南

※複数の学科を並置している学校がある

IV 実施内容

1 生徒向けアンケートの回答者数及び回答率

区分			対象者数	回答者数	回答率
全日制	普通科	学年制	26,248 名	16,672名	63.5 %
		単位制	3,244 名	1,890名	58.3 %
	総合学科		1,311 名	781名	59.6 %
	専門学科		3,662 名	2,132名	58.2 %
定時制			1191 名	374名	31.4 %
通信制			349 名	146名	41.8 %
全体			36,005 名	21,995名	61.1 %

2 アンケートの質問項目

1 生徒向けアンケート

- (1) 高校生活を振り返ってみて、あなたが通っている高校に満足していますか。
- (2) 高校生活での「キャリア教育（社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を育てる教育）」により、中学生の時よりも社会的・職業的自立のために必要な能力が身に付いたと思いますか。
- (3) 「学校での授業や活動が今後の自分のために役に立つ」と思いますか。
- (4) 高校生活において、1人1台端末を活用することによって、中学生の時よりも情報活用能力を高めることができたと思いますか。（令和6年度より追加した項目）
- (5) 高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることができたと思いますか。
- (6) 中学生の時よりも人を思いやる気持ちが身に付いたと思いますか。
- (7) 中学生の時よりも（地域）社会に貢献しようと思うようになりましたか。
- (8) 高校生活を通して、「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持てたと思いますか。

2 保護者向けアンケート

生徒向けアンケートとの共通項目

- (1) 生徒本人の高校生活を振り返って、本人が通っている高校に満足していますか。
- (2) 高校生活を通して、中学生の時よりも生徒本人の思考力・判断力・表現力が高まったと思いますか。
- (3) 生徒本人の高校生活を振り返ってみて、生徒本人が中学生の時よりも人を思いやる気持ちが身に付いたと思いますか。
- (4) 生徒本人の高校生活を振り返ってみて、生徒本人が中学生の時よりも（地域）社会に貢献しようと思うようになりましたか。
- (5) 生徒本人が高校生活を通して、「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持てたと思いますか。

保護者のみの項目

- (6) 高校から保護者に対して積極的に情報が提供され、学校の様子が良くわかったと思いますか。
- (7) 保護者として学校に話をしたり、生徒本人について相談できる環境がありましたか。
- (8) 学校での保護者会や社会人のための講座、施設開放など、学校での活動に参加できたと思いますか。

V 結果の分析（次項以降）

1 生徒向けアンケート結果

- ・アンケート結果の経年変化について
- ・保護者向けアンケート結果と生徒向けアンケート結果との比較

2 学校運営協議会委員の意見

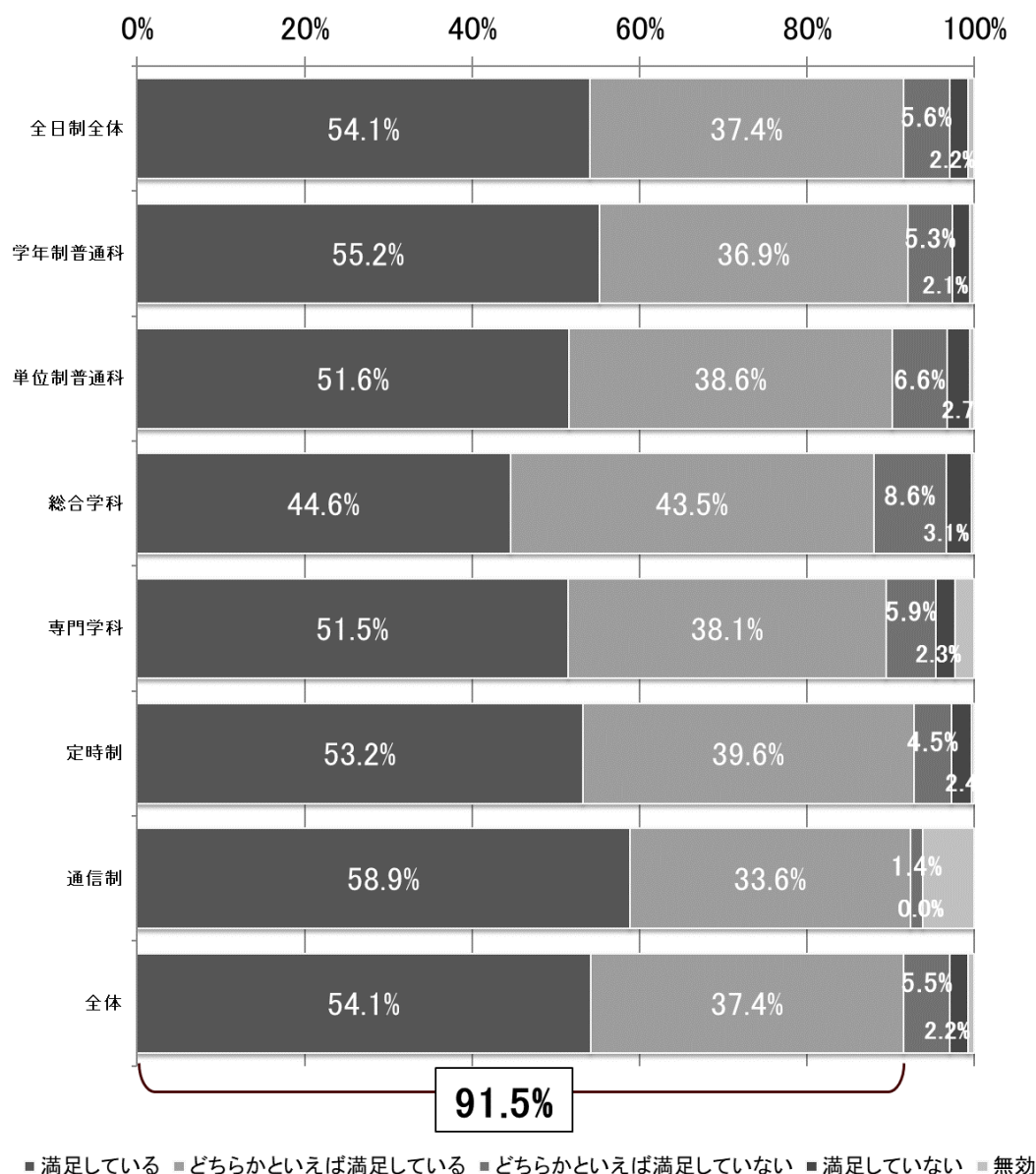
Ⅰ 生徒向けアンケート結果

学習希望や興味・関心に応じることができるよう、特色ある科目の設置や、学校行事、部活動等の多彩な活動の提供など、活力と魅力ある県立高校をめざして取り組んできたが、この取組を検証するため、アンケートを実施した。

（Ⅰ） 高校生活を振り返ってみて、あなたが通っている高校に満足していますか。

この質問項目に対して、「満足している」「どちらかといえば満足している」のいずれかに回答している生徒（以下「満足群」という。）は、回答者全体の91.5%となった。令和5年度の満足群（90.3%）と比較すると、その割合は増加した。

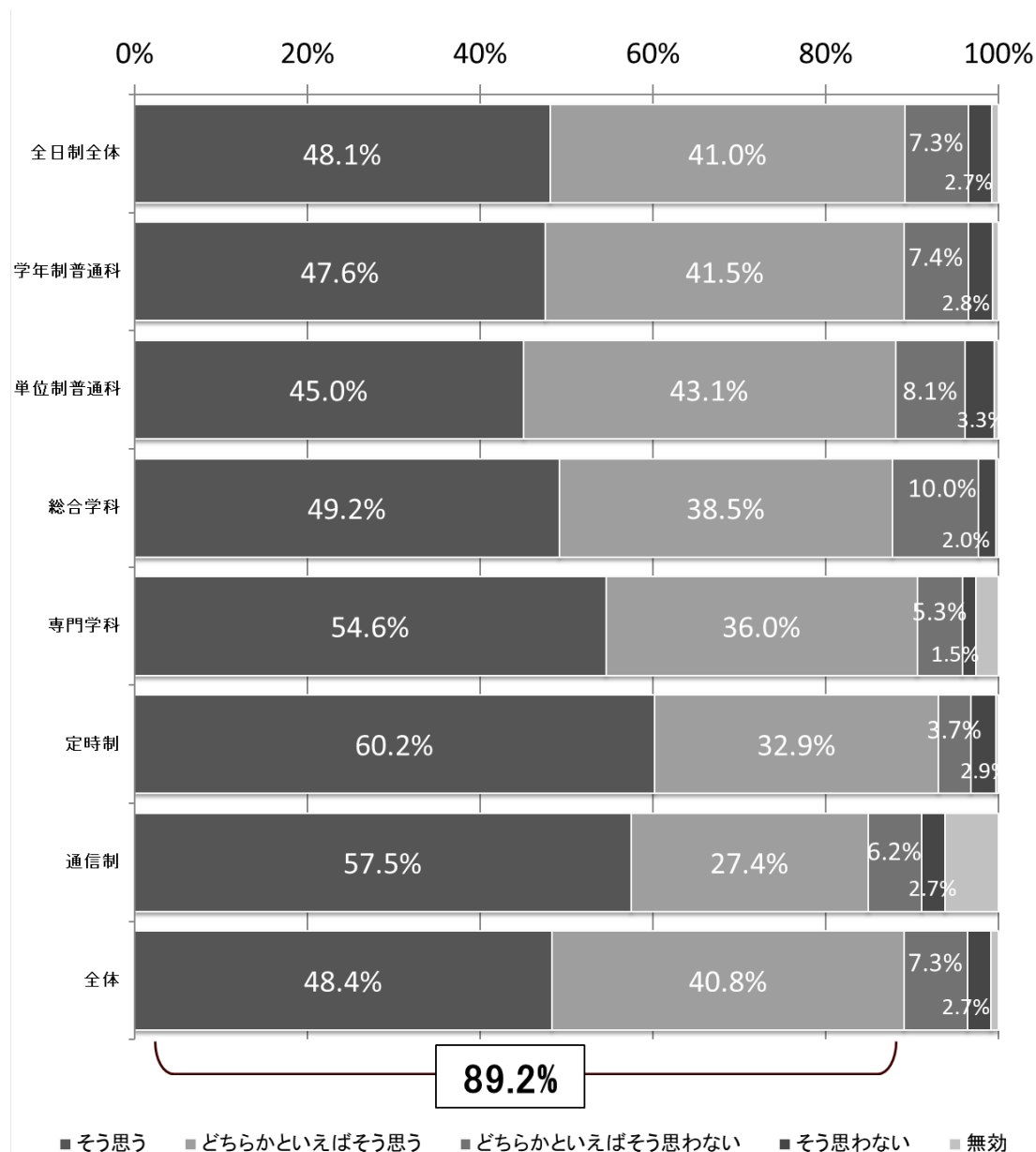
引き続き多様化する生徒・保護者のニーズに応えた教育活動による魅力ある県立高校づくりのさらなる推進が必要である。



(2) 高校生活での「キャリア教育（社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を育てる教育）」により、中学生の時よりも社会的・職業的自立のために必要な能力が身に付いたと思いますか。

この質問項目に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」のいずれかに回答している生徒（以下「肯定群」という。）は、回答者全体の89.2%となった。令和5年度の肯定群（88.6%）と比較すると、その割合はやや増加した。

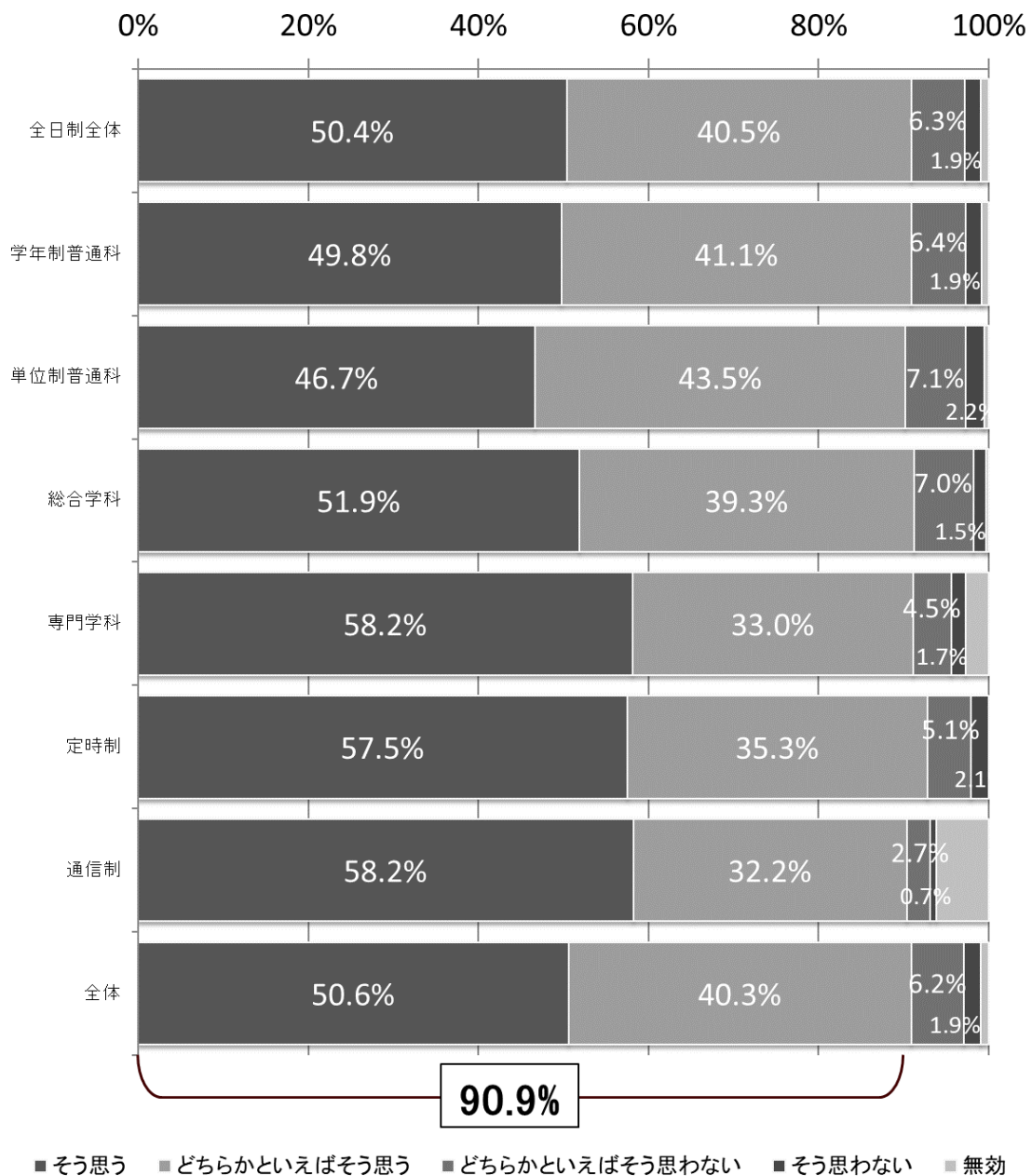
引き続き、生涯を通じた人間としての在り方生き方について考える取組を充実させることが必要である。



(3)「学校での授業や活動が今後の自分のために役に立つ」と思いますか。

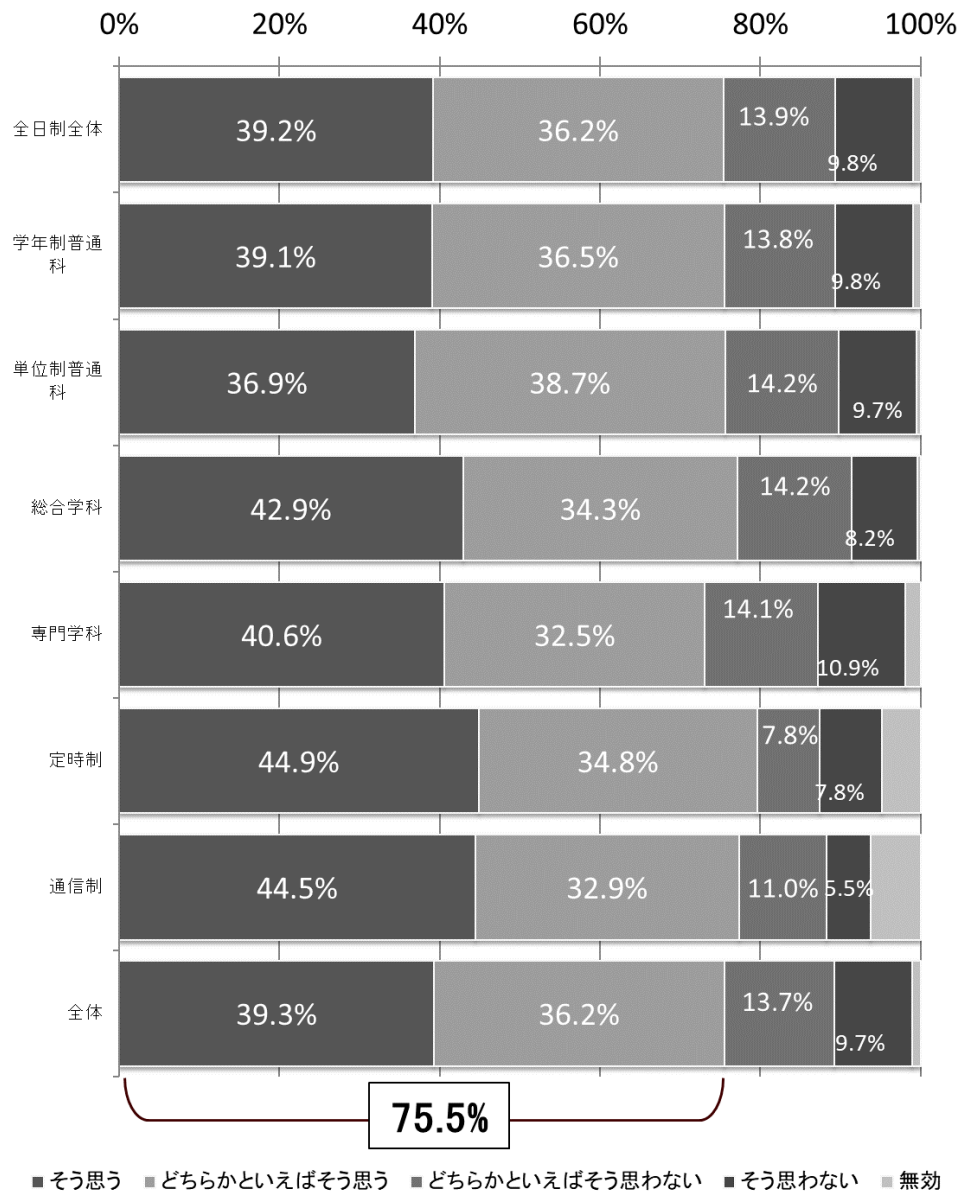
この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の90.9%となった。令和5年度の肯定群(90.5%)と比較すると、その割合はやや増加した。

引き続き、個性に応じて将来の進路を決定させるような取組を充実させたり、教育の質の保証に取り組んだりする必要がある。



(4) 高校生活において、1人1台端末を活用することによって、中学生の時よりも情報活用能力を高めることができましたか。(令和4年度入学生から1人1台端末を活用して学びの充実を図ることとしており、全日制課程において、当該入学年度の生徒が卒業を迎える令和6年度から本項目を新たに追加して実施した。)

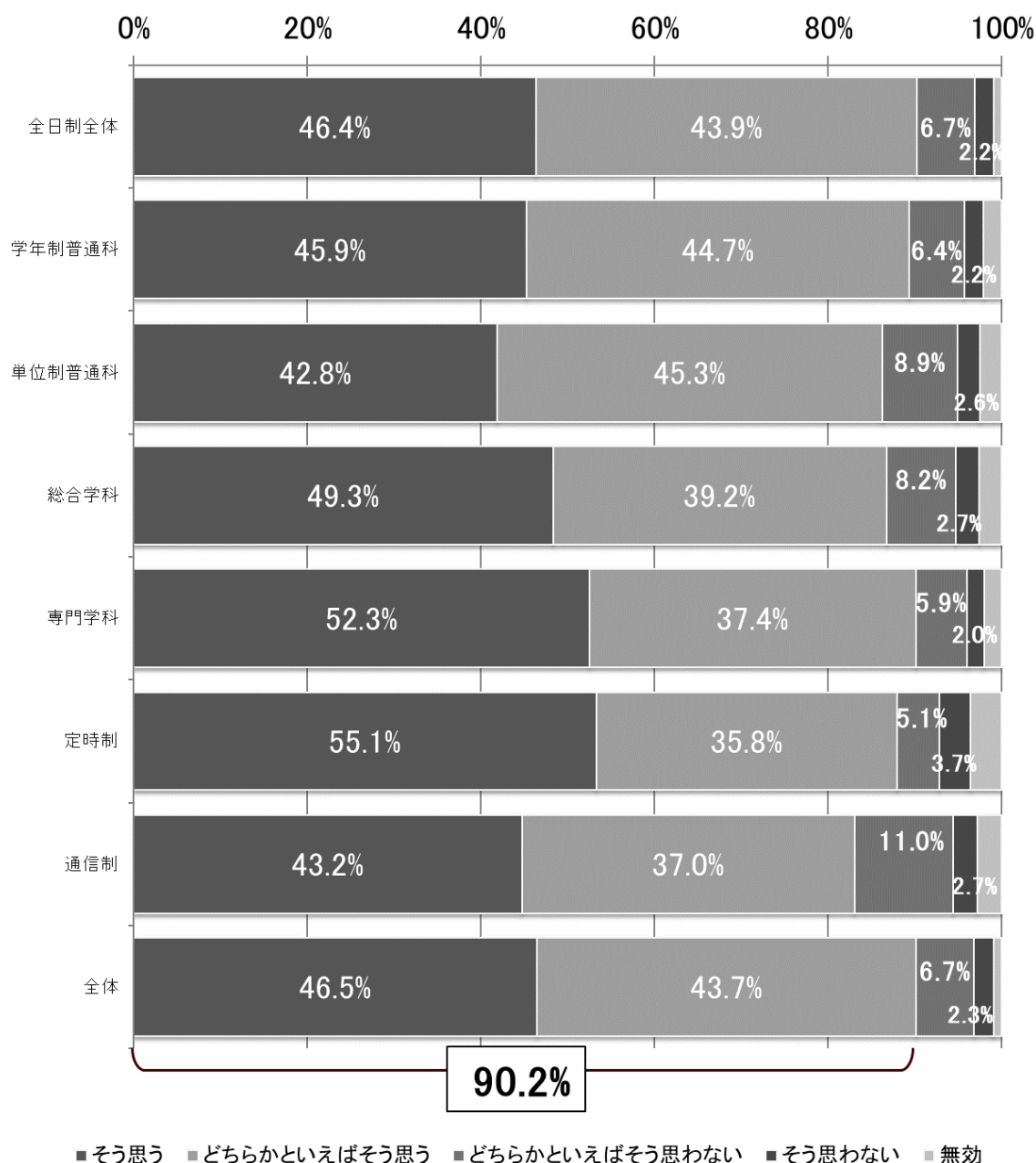
この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の75.5%となった。引き続き、生徒の情報活用能力を高めることができるよう、1人1台端末を活用を推進に取り組む必要がある。



(5) 高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることができましたか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の90.2%となった。令和5年度の肯定群（90.2%）と同様の値となった。

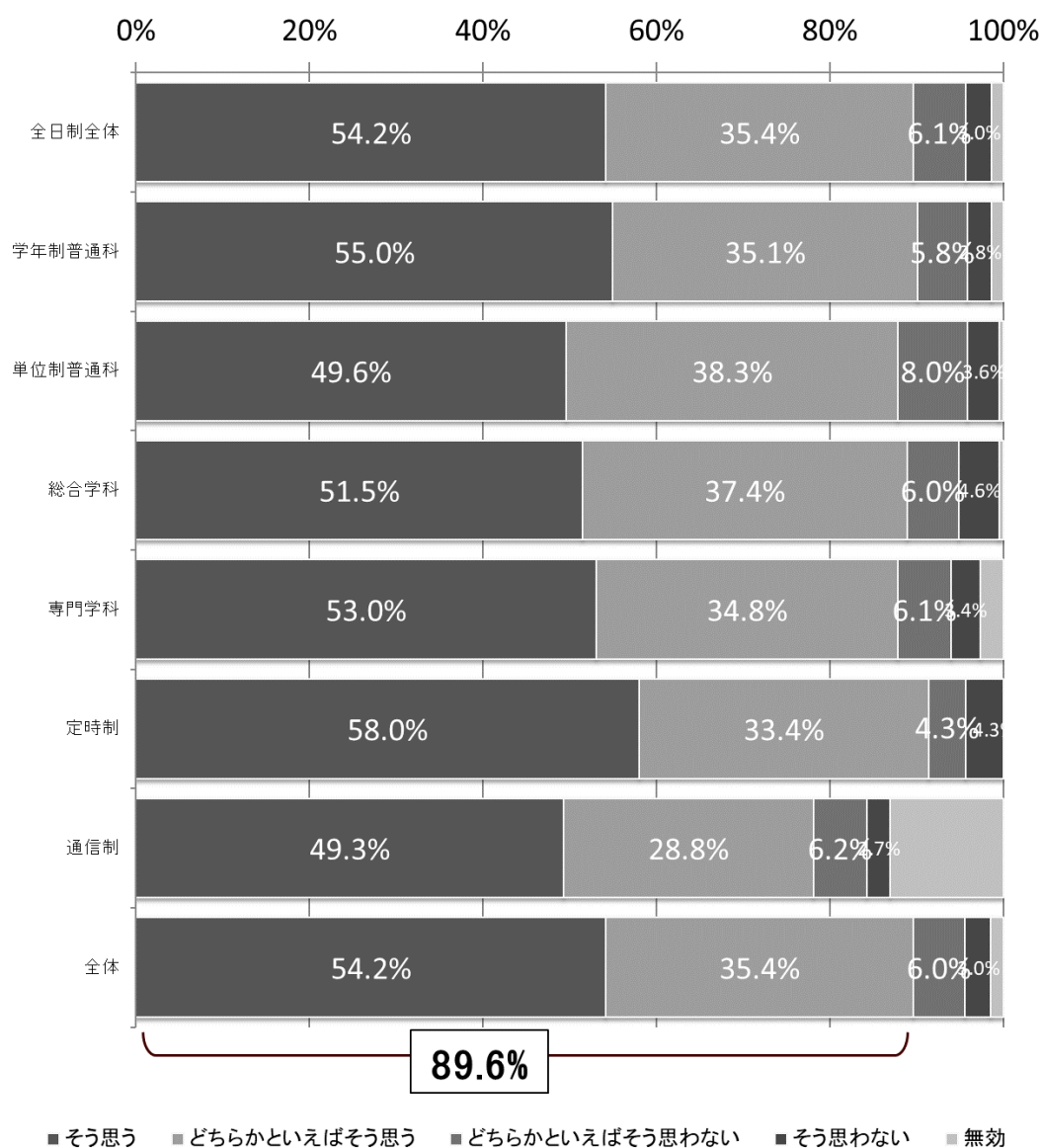
引き続き、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を行い、思考力・判断力・表現力を高める取組を推進する必要がある。



(6) 中学生の時よりも人を思いやる気持ちが身に付いたと思いますか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の89.6%となった。令和5年度の肯定群（89.0%）と比較すると、その割合はやや増加した。

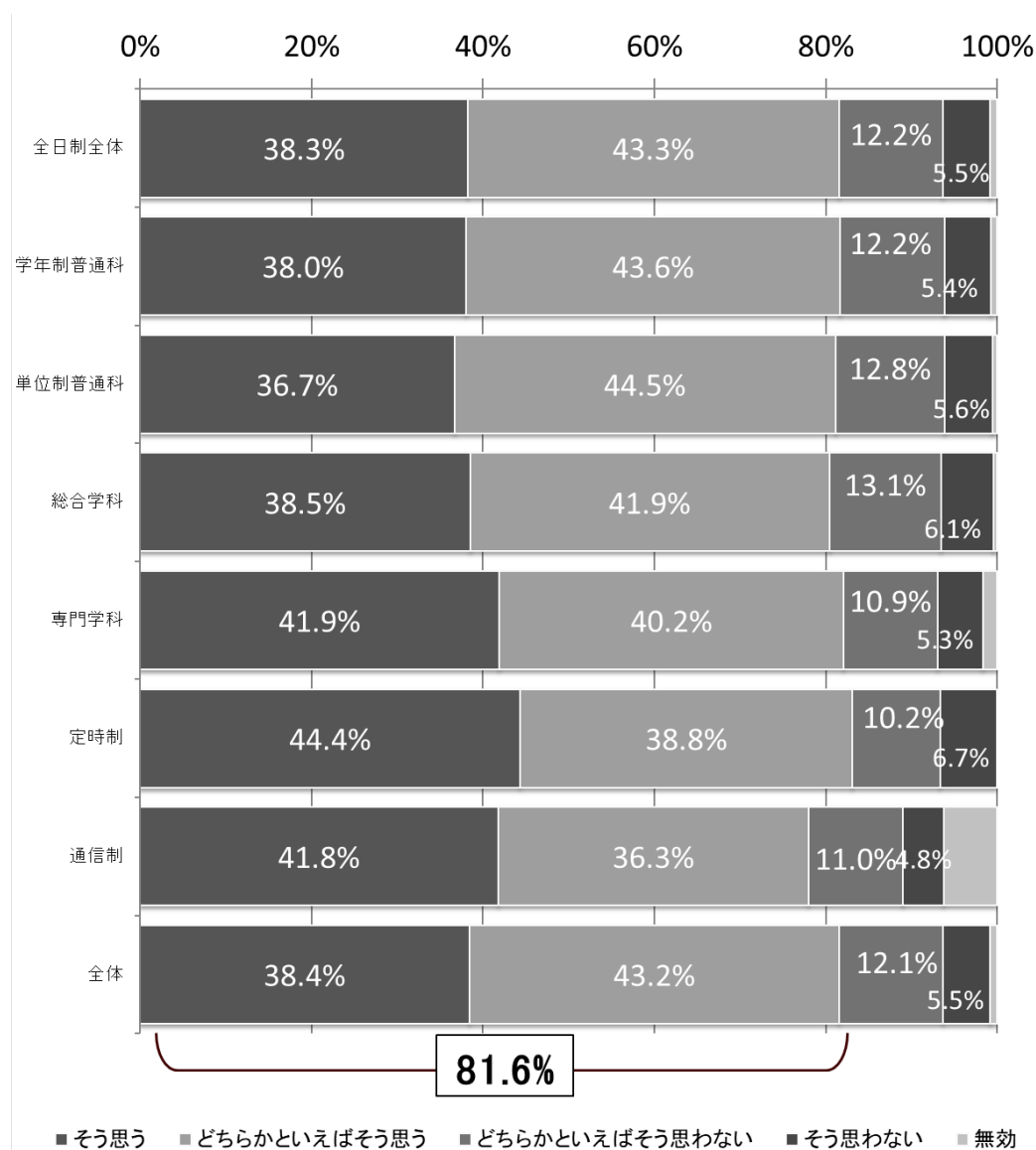
引き続き、いのちの大切さの学びを深める「いのちの授業」等の取組により、高校生活を通じて、他者への思いやりや自分を大切にすることを必要である



(7) 中学生の時よりも（地域）社会に貢献しようと思うようになりましたか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の81.6%となった。令和5年度の肯定群（82.0%）比較すると、その割合はやや減少した。

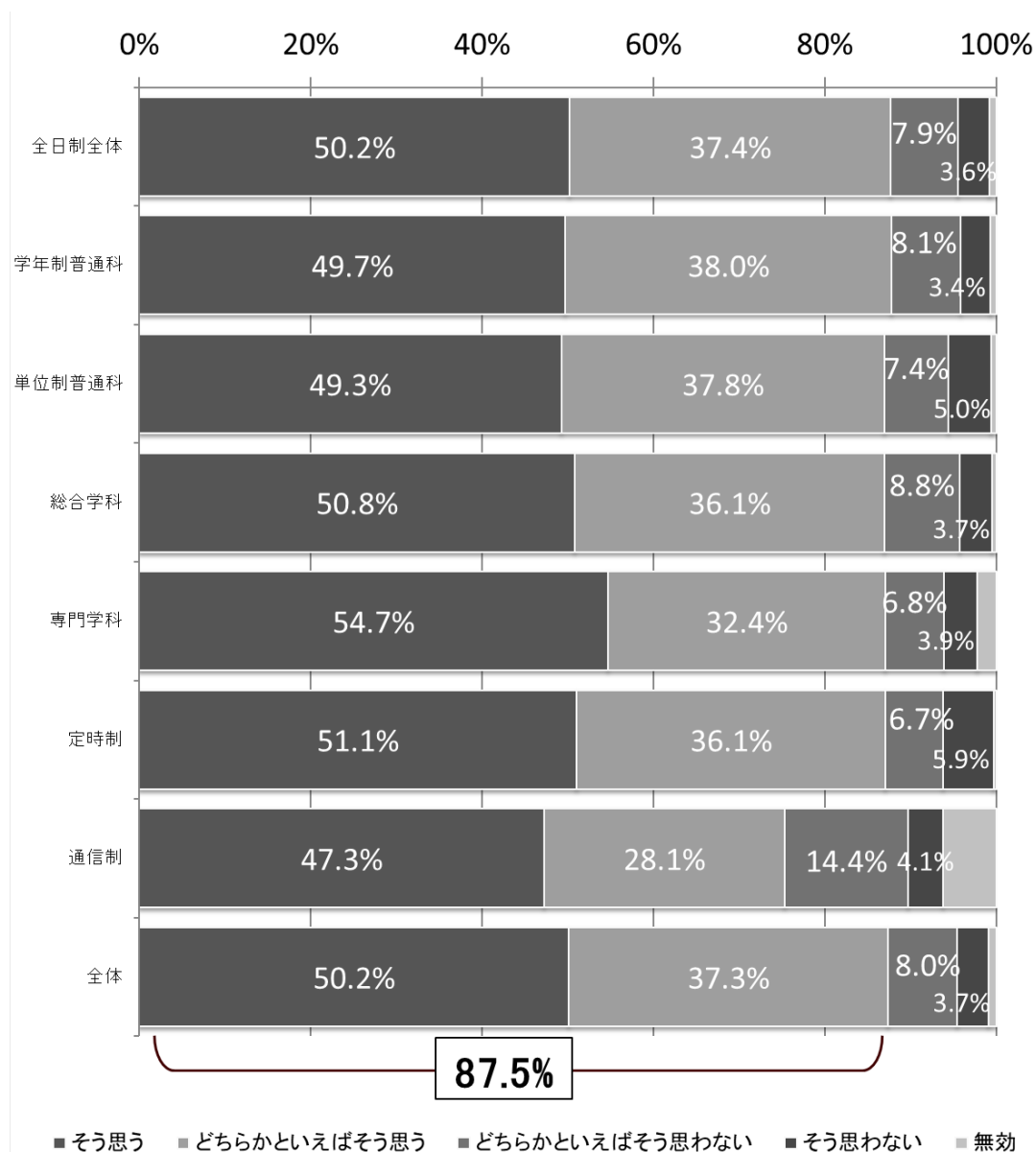
昨年度と比較するとやや減少しているが、肯定群は8割以上を維持している。引き続き、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うために、全県立高校へ導入となったコミュニティ・スクールをさらに活用する等、地域との協働の機会をより多く設けることが必要である。



(8) 高校生活を通して、「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持てたと思いますか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の87.5%となった。令和5年度の肯定群（87.1%）と比較すると、その割合はやや増加した。

引き続き、生徒が主体的に活動する授業等の活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、将来に対しての夢や可能性を広げることができるよう取り組む必要がある。

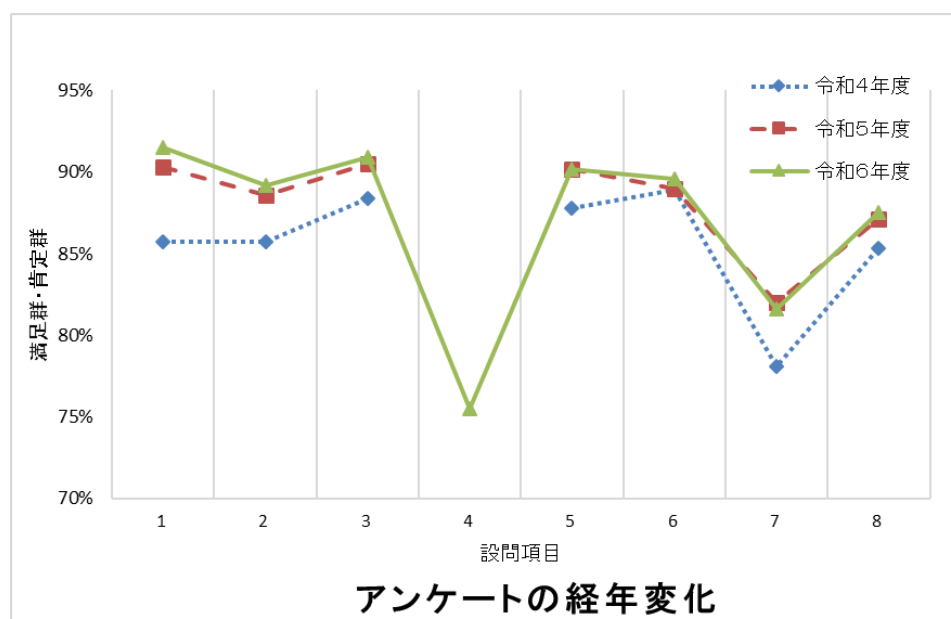


アンケート結果の経年変化について

本アンケートは、令和元年に設問内容や選択肢を見直して実施している。令和4年度から過去3年間の結果の経年変化を以下に示す。

設問（1）は「満足している」「どちらかといえば満足している」のいずれかに回答している生徒、設問（2）～設問（8）は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」のいずれかに回答している生徒の割合（％）を示す。多くの項目において約8割以上の生徒が肯定的な回答をしている。

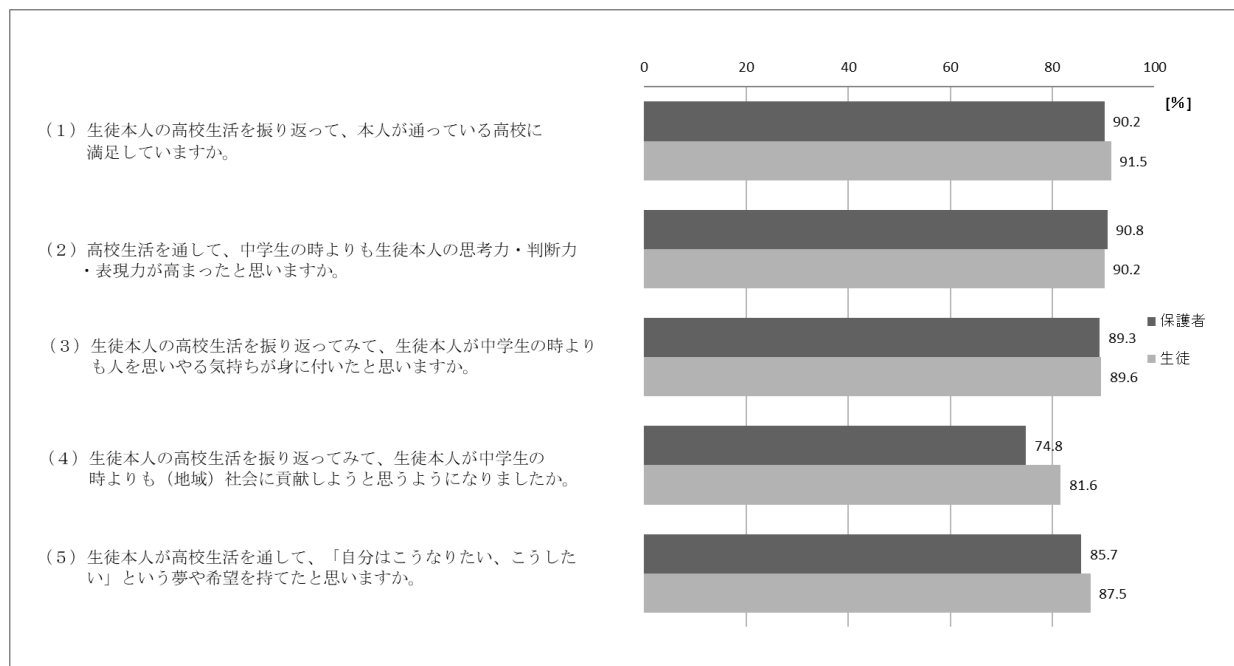
	設問	令和4年度	令和5年度	令和6年度
(1)	高校生活を振り返ってみて、あなたが通っている高校に満足していますか。	85.7%	90.3 %	91.5 %
(2)	高校生活での「キャリア教育(社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を育てる教育)」により、中学生のときよりも社会的・職業的自立のために必要な能力が身に付いたと思いますか。	85.7%	88.6 %	89.2 %
(3)	「学校での授業や活動が今後の自分のために役に立つ」と思いますか。	88.4%	90.5 %	90.9 %
(4)	高校生活において、1人1台端末を活用することによって、中学生の時よりも情報活用能力を高めることができたと思いますか。			75.5 %
(5)	高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生のときよりも思考力・判断力・表現力を高めることができたと思いますか。	87.8%	90.2 %	90.2 %
(6)	中学生の時よりも人を思いやる気持ちが身に付いたと思いますか。	88.9%	89.0 %	89.6 %
(7)	中学生の時よりも(地域)社会に貢献しようと思うようになりましたか。	78.1%	82.0 %	81.6 %
(8)	高校生活を通して、「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持てたと思いますか。	85.3%	87.1 %	87.5 %



保護者向けアンケート結果と生徒向けアンケート結果との比較

生徒向けアンケートとの共通項目について、満足群及び肯定群の割合を比較した。保護者向けアンケートの項目を基に結果を以下に示す。

保護者の満足群及び肯定群の割合は、生徒と保護者の回答で大きな差はなかった。生徒と保護者の回答で最も差が大きかった質問項目は、(4)である。(4)の「生徒本人の高校生活を振り返ってみて、生徒本人が中学生の時よりも(地域)社会に貢献しようと思うようになりましたか。」については、保護者(74.8%)と生徒(81.6%)の肯定群の割合を比較すると、生徒の方が6.8ポイント高かった。



2 学校運営協議会委員の意見

【対 象】全県立高校の学校運営協議会委員

【対象校】全県立高等学校

【内 容】各校の学校運営協議会に期待することなど、自校のコミュニティ・スクールでの活動を通しての意見

【意見集約の方法】各学校において、学校運営協議会を通じて伺った意見を取りまとめた。

- ・学校の方向性が明確に示され、教職員の世代交代が進む中でも、グループリーダーを中心とした各グループによる役割分担と情報共有が機能している。
- ・PDCAサイクルをしっかりと行うためには、学校評価報告書について、より具体的な目標を設定し、それぞれの評価の観点を明確にして、達成度を数値化できるものは数値化したほうがよい。数値化できないものは、取組達成の時期を明確にして、それが達成されたかを示したほうがよい。
- ・ICTの環境整備が進む中、ICT機器を積極的に利活用できている。
- ・ロイロノート実践事例紹介は、知識を共有することで教員の得手不得手がなくなり授業が標準化され質の高い授業につながるので良い取組である。
- ・授業での生徒のペアワーク等のコミュニケーションに対する不安の解消についてどう対応するのか。また、効果的に取り組むことが困難な生徒の支援についてどう対応するのか考えることが課題である。
- ・かながわ子どもサポートドックをはじめ、生徒支援においてきめ細かな取組をしていると思う。
- ・SC等との連携を含め、さらなる相談体制及び予防・早期発見的な支援の充実に向かっていくと思う。
- ・進路実現に向けた意識の醸成として外部検定試験を導入していることは評価できる。さらに推進させるため、探究の授業において国際バカロレアのプログラムを参考にしてもよいのではないか。
- ・1年次より計画的にキャリア教育が実践されている。キャリア教育の学びによって、生徒は、就職・進学のために、何を取り組まなくてはならないのかが明確になるのではないか。
- ・ボランティア活動に取り組むことが生徒の自己肯定感を高めることにつながっている。今後より多くの生徒がボランティア活動に参加できるようになるとよい。
- ・学校行事や部活動は生徒の自己有用感を醸成できる効果的なものである。より一層、これらの活動を活性化させに主体的に取り組む生徒を増やしてほしい。
- ・学校説明会等では、参加者に学校の魅力・特色を伝えられている。今後も引き続き積極的な広報活動を行っていただきたい。
- ・ホームページやSNS等を活用した広報活動について、今後もしっかりと時代に合わせたツールを使って広報してPRにつなげてほしい。
- ・業務のデジタル化や不要業務の見直しが進められており、職場環境の改善に努める姿勢は評価できる。
- ・ライフワークバランスを実現できる職場環境の構築はとても重要である。今期取り組まれた、休暇の取りやすい職場環境づくりを推進したことはとても意義のあることであると感じる。
- ・マニュアル運用の持続性、SNS活用時のリスク管理など引き続きの課題に継続的な取組を期待する。